

せつぶん 節分について知ろう

2月2日(月)

せつぶん 節分とは・・・

「節分」とは、「季節の区切りめ」ということで、もともとは一年に4回ありました。立春(2月始めごろ)、立夏(5月始めごろ)、立秋(8月始めごろ)、立冬(11月始めごろ)の前の日がすべて節分でした。今では、立春の前日だけを指すものとなりました。これは、旧暦では、立春が新しい年の始まりとされていたからです。(今年の節分は、2月2日です。)

せつぶん 節分にこめられた想い

節分には、「鬼は外、福は内」と声をかけながら豆をまきます。昔の人は、病気や火事・地震などのわざわいを鬼がもってくると信じていました。豆をまいて鬼が家の中に入らないようにすると、家族が健康で悪いことが起こらないと考えたのです。



また、鬼がいやがって家に入らないように、柵の枝に焼いたイワシの頭をさして、家の入口につるしておくという地方もあります。

長崎では、鬼の腕に似ている「紅大根」を食べたり、縁起を担いで「金頭」という魚を食べたりします。

今日の給食は、「節分」にちなんで、「イワシフライ」と「節分豆」です。みなさんも、鬼を追い払い、健康に過ごしましょう。